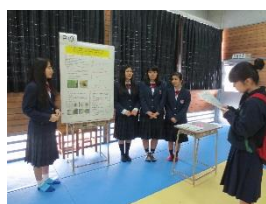
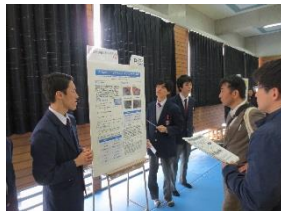
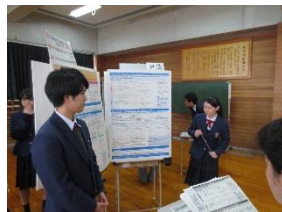
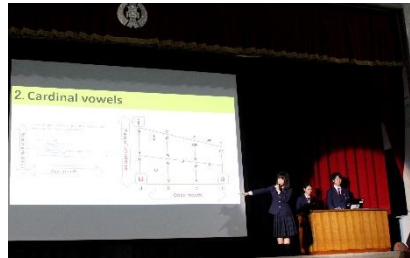
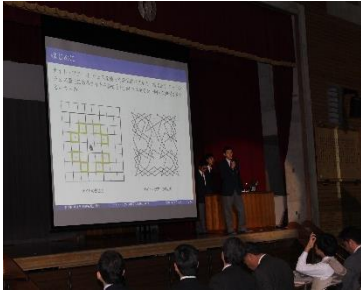


平成 30 年度 2 月 SSH 活動記録

SSH 校内生徒研究発表会 2月3日(土)

本校体育館で SSH 校内生徒研究発表会が行われました。口頭発表が 5 点、ポスター発表が 16 点、研修報告が 1 点です。昼休みや放課後に理科・数学や英語の先生方と一緒に資料を作成し、練習を重ねてきたので、どの発表も素晴らしい出来でした。口頭発表において英語発表の場合は場内からも英語で質問し、英語で答えることも出来ました。講評にて、本校 SSH 運営委員長の琉球大学 理事 副学長の西田先生が以前は発表後の質問がなかったが、年々質問者が多く出て良かったと評価されました。





サイエンス・ダイアログ

2月21日(水)

S SH探求Ⅱの授業でサイエンス・ダイアログが行われました。ダイアログとは「対話」を意味し、本事業は、日本学術振興会(J S P S)のフェローシップ制度で来日している優秀な若手外国人研究者が高等学校において英語で研究のレクチャーを行う機会を提供するプログラムです。

今回来ていただいたのは、コロンビア出身の MONTENEGRO GONZALEZ 博士(琉大)、中国出身の LEUNG, H. 博士(OIST)、スペイン出身の Orestes RIVADA WHEELAGHAN 博士(OIST)の3人です。

それぞれの博士の母国の紹介と研究内容を紹介していただきました。生徒の皆さんは、講義に関する質問や講師の国についての質問を活発に英語で行っていました。英語で質疑応答は、とても難しいと思いますが、皆さん果敢に挑戦していました。球陽高校生の成長が見えた講義になりました。



SSH 英語講座（化学）

2月23日（金）

Dr. Andrea Renzetti（イタリア出身）をお招きし、化学についての講座を行いました。講座のテーマは『Life and Research in Five Countries』

講師のアンドレア博士は研究者になったきっかけや今までに訪れた5つの国、自身の研究についてのお話をされていました。これまでに、イタリア、フランス、日本、カナダ、イギリスで研究を重ねてきており、それぞれの国の様子と研究について話していました。化学の研究者を志したきっかけは化学が彩り豊かだったことや旅行が好きだったことなど、身近な話題から化学の話へとつなげていって、生徒達も興味を持って話に聞き入っていました。また、ゆっくりと丁寧に話してくれたので、ほとんどの生徒達が英語を聞き取ることができました。英語の質問も積極的に行った生徒もおり、球陽高校生の成長が見られる講義でした。

博士の言葉で”Law is different in each country, but science is the same.”という言葉が印象的でした。また”If you learn chemistry, you can change the world.”という言葉も心に残るものでした。将来、球陽高校生も科学者になって世界を変えることをしているかもしれません。未来の球陽生に期待します。

